

公民館の再編について（概要・案）

1 「公民館の再編」の位置付け … 2つの側面から把握

(1) 施設・建物の再編 … 「施設マネジメント」の話

(2) 組織の再編 … 「公民館再編」の話

2 へ

2 公民館の施設・建物の再編（施設マネジメント）

市の公共施設等総合管理計画、個別施設計画等に基づき既に取組中

そのうち、生涯活動センターと地域会館について ⇒ 図表①

3 公民館の組織の再編（公民館再編）

2段階による段階的な再編案

(1) 第1段階

市公民館連合会（市公連）の6ブロックを7ブロックに再編

(2) 第2段階

各生涯活動センターの整備等を機に新ブロックごとに再編

図表②

(3) **公民館再編の基本的考え方（本審議会への諮問事項）**

公民館の組織は個々に存続か、統合か。⇒ 図表③

(4) 主な目的・理由

ア 生涯活動センターの整備等に応じた公民館活動の活性化 ⇒ 資料2

イ 人口減少下での広域化による持続可能性の確保

ウ 既存施設の一層の利活用、利便性・効率性の向上

資料3-1・2

(5) 公民館再編のメリット及びデメリットについて検討

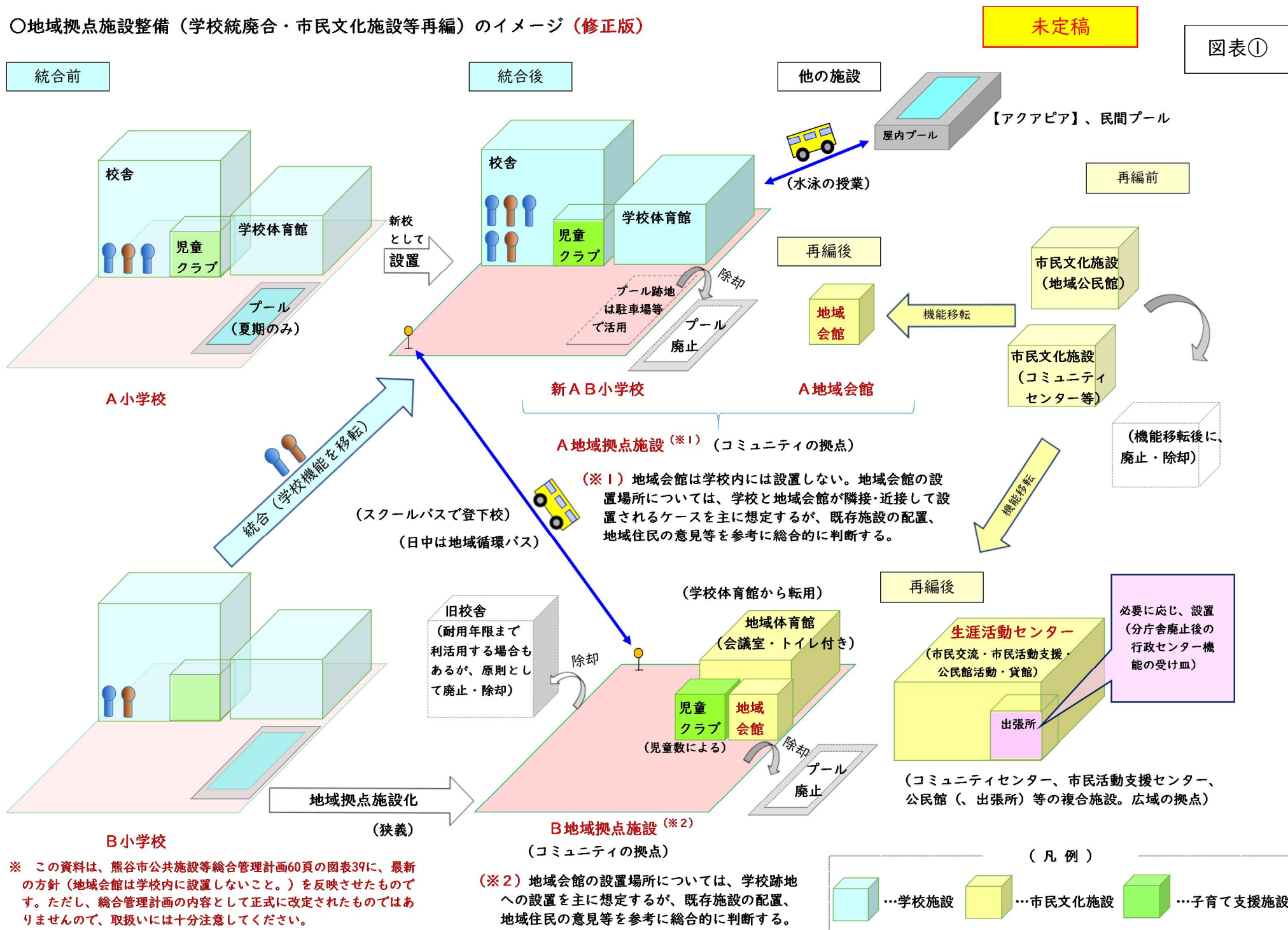
(6) 令和5年度 熊谷市公民館運営審議会の審議日程（予定）

区分	開催時期	主な審議事項
第1回	8月3日(木)	(1) 現状把握・情報共有 (2) 課題整理(再編のメリット・デメリットについて)
第2回	11~12月	再編の基本的考え方について(必要に応じ、具体的制度設計についての検討を含む。)
第3回	1~2月	再編の基本的考え方について(継続審議の場合。必要な場合に開催)

○地域拠点施設整備（学校統廃合・市民文化施設等再編）のイメージ（修正版）

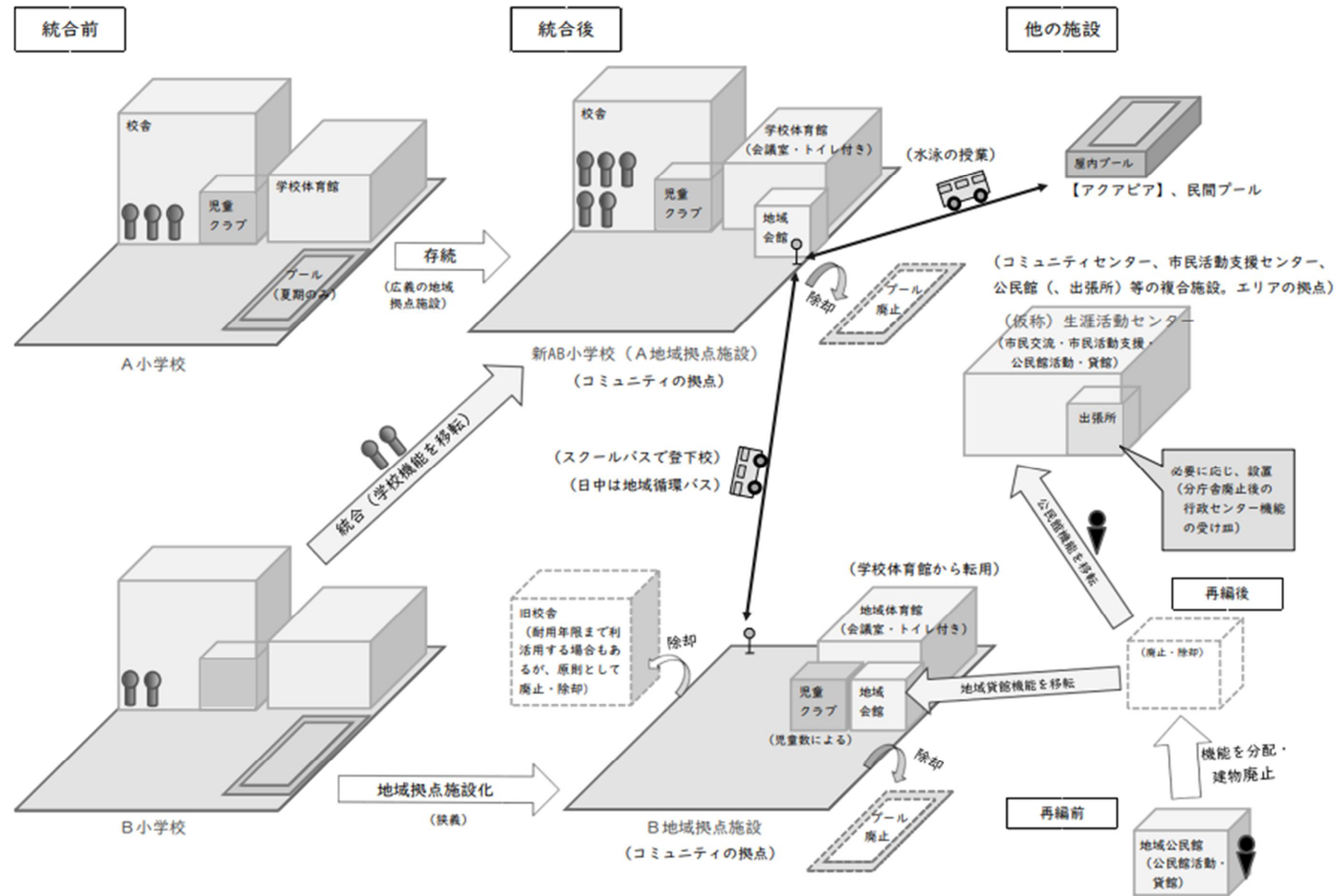
未定稿

図表①



※ この資料は、熊谷市公共施設等総合管理計画60頁の図表39に、最新の方針（地域会館は学校内に設置しないこと。）を反映させたものです。ただし、総合管理計画の内容として正式に改定されたものではありませんので、取扱いには十分注意してください。

図表 39 地域拠点施設整備のイメージ (学校統廃合・公民館等再編のイメージ)



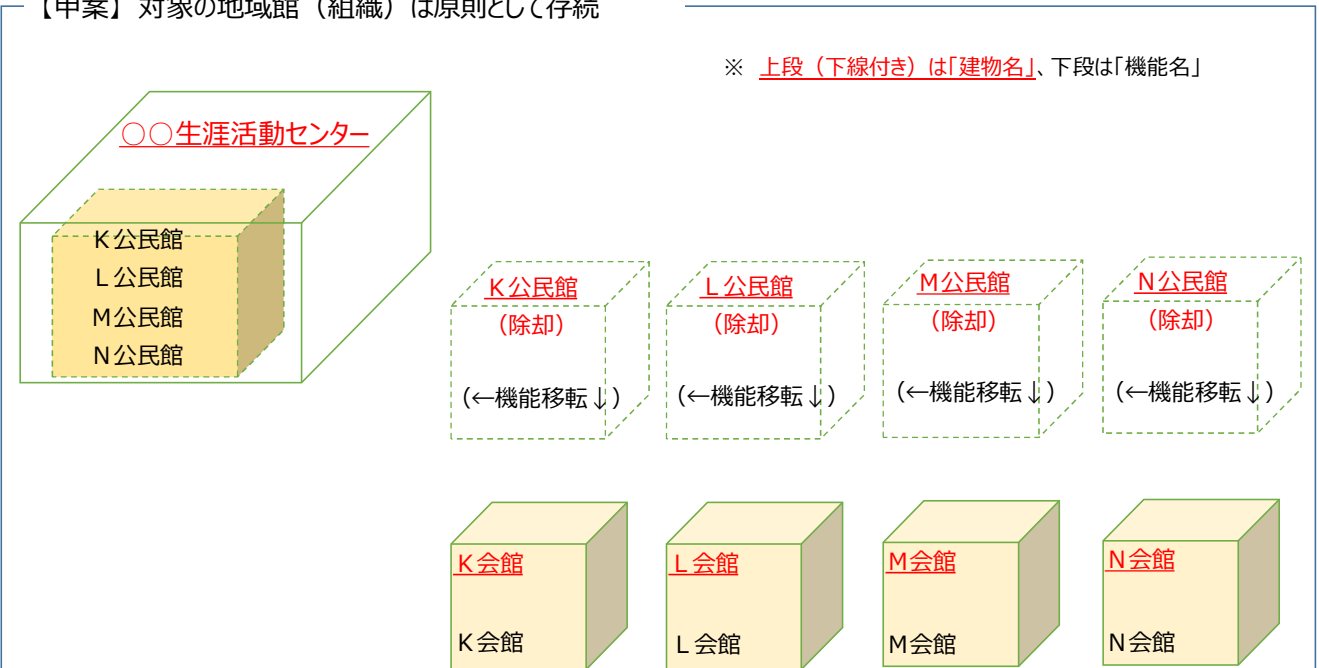
○ 公民館の組織の再編（第2段階）

（論点）既存の建物が廃止される場合、組織は個々に存続か、統合か。

【現状】



【甲案】対象の地域館（組織）は原則として存続

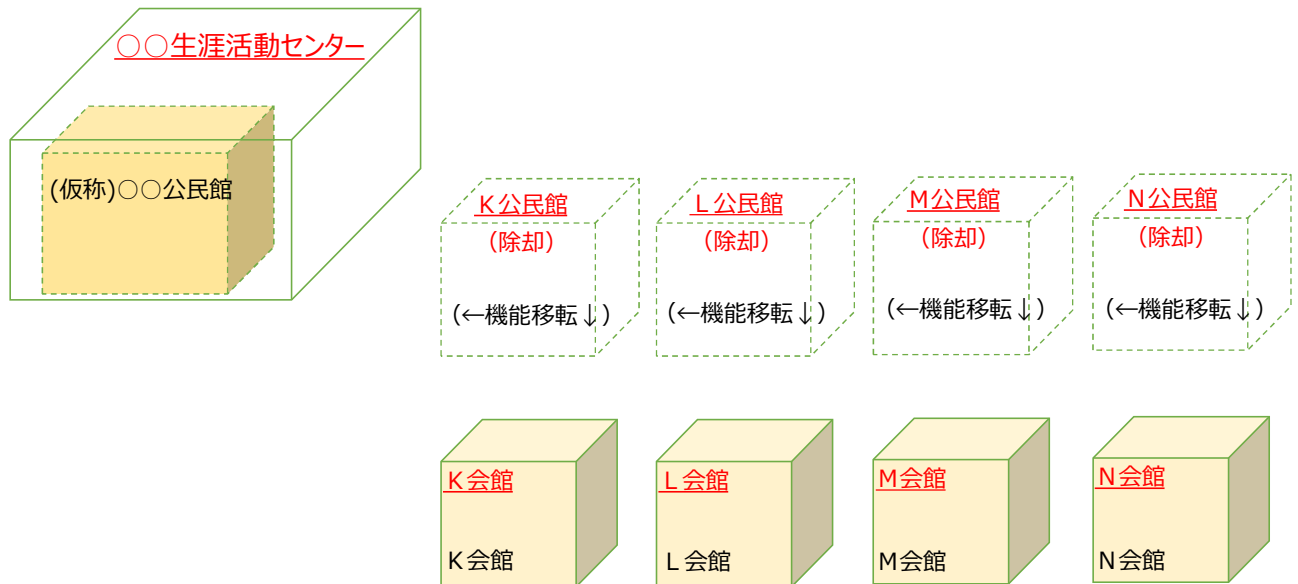


（長所） 1 一定程度は従来と同じやり方で活動できる。

- （短所）
- 1 各館が個々に活動する場合、大規模になった施設のポテンシャル（潜在力）を生かせないおそれがある。また、統一的な活動が困難な場合、エリアの拠点とは言い難く、既定の方針にそぐわない。
 - 2 事務室に多くのスペースを充てる分だけ、貸室のスペースが少なくなる。
 - 3 施設を共同で利用する他の分野（市民活動、コミュニティ活動など）との調整が難しい。

【乙案】対象の地域館（組織）を統合して新公民館を設置

※ 上段（下線付き）は「建物名」、下段は「機能名」



- (長所) 1 統合された新公民館の活動により、大きな施設のポテンシャルが生かされることを期待できる。
また、そのような活動によりエリアの拠点となり得るため、既定の方針と合致する。
- 2 事務室をコンパクトにできるため、その分貸室のスペースも確保できる。
- 3 施設を共同で利用する他の分野（市民活動、コミュニティ活動など）との調整がしやすい。

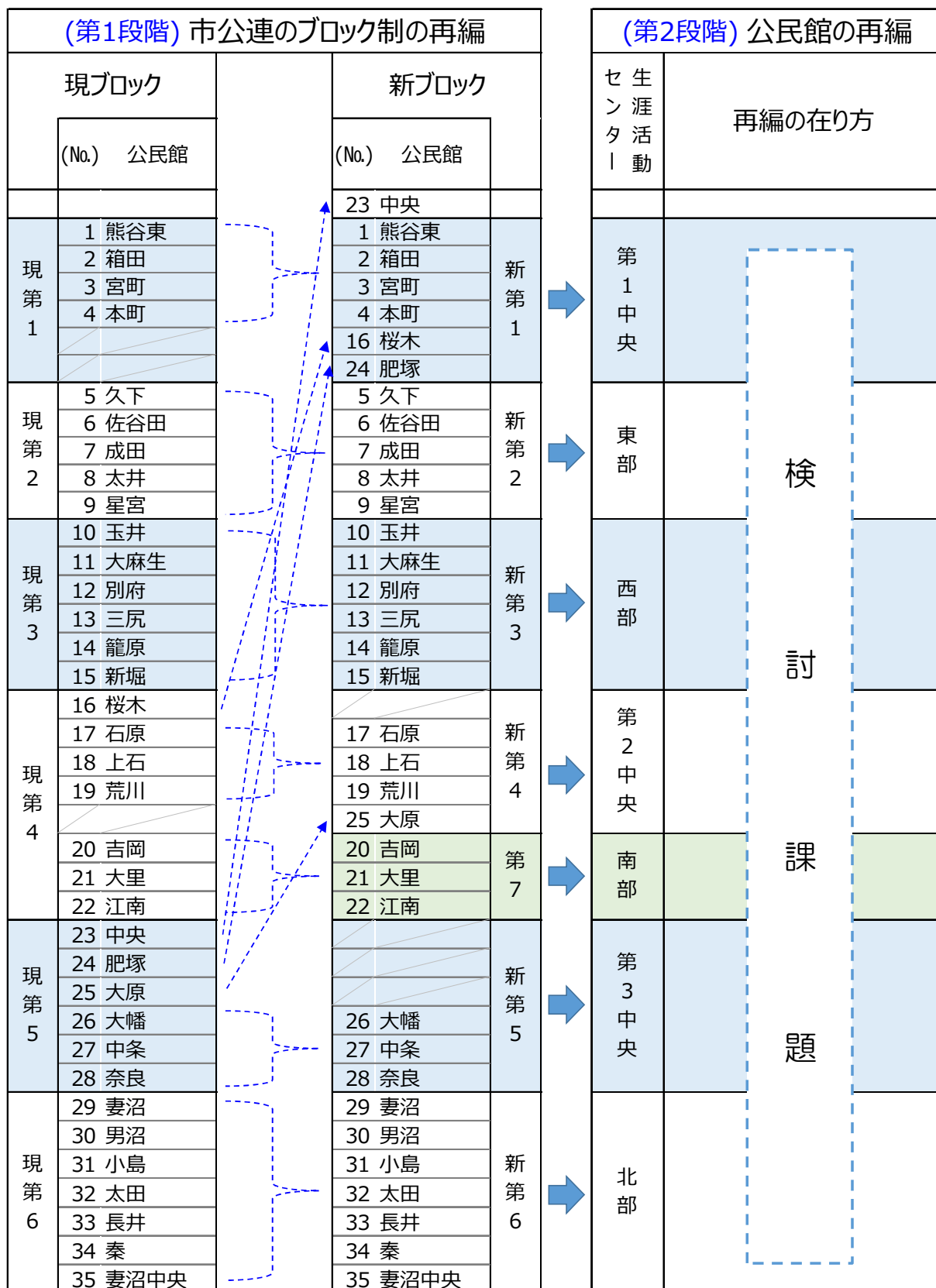
- (短所) 1 従来のやり方を変えなければならない面もある。

※1 【甲案】と【乙案】のどちらでも、自主事業としての講座と各学習グループの活動は、生涯活動センターと地域会館の両方で行うことができることを想定しています。

※2 上記の【甲案】と【乙案】は、生涯活動センターが整備された場合を例として比較を行っていますが、より一般的な視点から比較検討を行うことも必要です。具体的には、生涯活動センターが未整備の場合や、生涯活動センターは整備済みであるが他の既存施設に再編後の公民館事務室を設置する場合なども考慮して、再編のメリットとデメリット（デメリットについてはそれへの対応策も）について検討していく必要があります。

図表②

○ 公民館の組織の再編（主に第1段階）



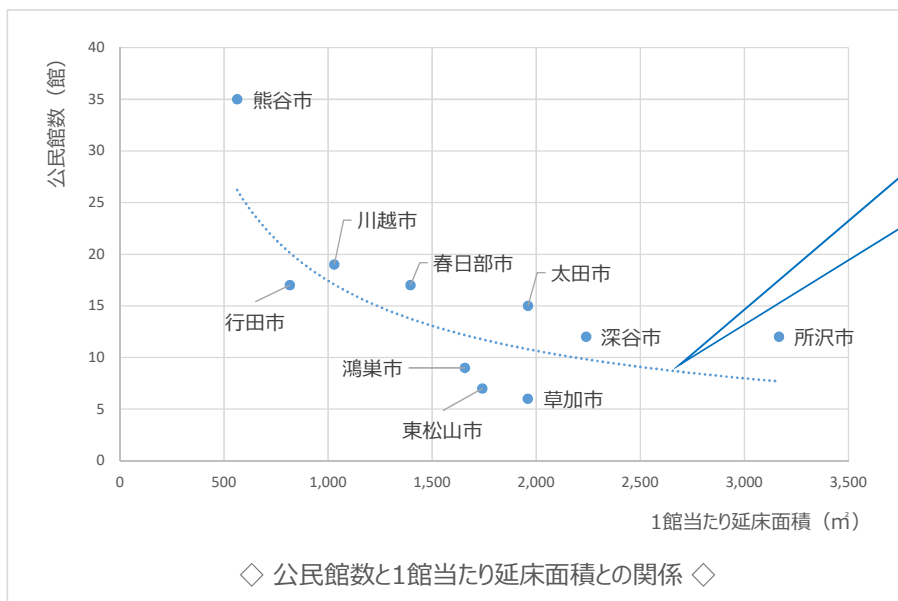
※ 生涯活動センターはいわゆる広域施設（市民全体で共同利用する施設）に該当するため、全市民が利用可能ですが、事実上施設に近い区域の住民による利用が多くなることを想定しています。

○公民館の設置状況（隣接市・施行時特例市ほかとの比較）

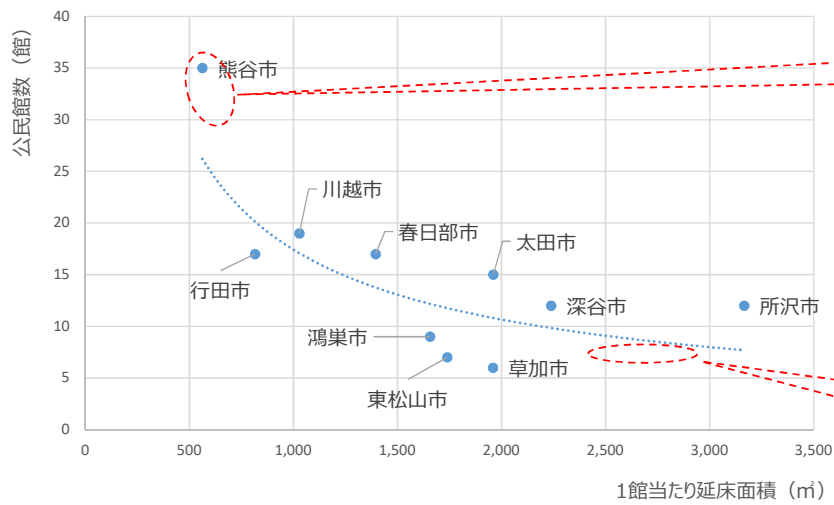
整理 No.	市名	都市類型	人口 (人)	面積 (km ²)	5年間の人口増減 (人)	人口密度 (1km ² 当たり)	公民館数	公民館の延床面積合計 (m ²)	1館当たり人口 (人/館)	1館当たり面積 (km ² /館)	1館当たり延床面積 (m ²)	備考
1	熊谷市	施行時特例市	194,415	159.82	-4,327	1,216.5	35	19,703	5,555	4.6	563	☆北部地域振興交流拠点(仮称)
2	川越市	中核市	354,571	109.13	3,826	3,249.1	19	19,557	18,662	5.7	1,029	☆ウエスタ川越(西部地域振興ふれあい拠点施設)
3	行田市	Ⅱ-2	78,617	67.49	-3,496	1,164.9	17	13,869	4,625	4.0	816	○隣接市
4	所沢市	施行時特例市	342,464	72.11	2,078	4,749.2	12	37,992	28,539	6.0	3,166	◇都市類型同じ
5	東松山市	Ⅱ-2	91,791	65.35	354	1,404.6	7	12,181	13,113	9.3	1,740	○隣接市
6	春日部市	施行時特例市	229,792	66.00	-2,917	3,481.7	17	23,719	13,517	3.9	1,395	◇都市類型同じ。☆ふれあいキューブ(東部地域振興ふれあい拠点施設)
7	鴻巣市	Ⅲ-3	116,828	67.44	-1,244	1,732.3	9	14,912	12,981	7.5	1,657	○隣接市
8	深谷市	Ⅲ-1	141,268	138.37	-2,543	1,020.9	12	26,865	11,772	11.5	2,239	○隣接市
9	草加市	施行時特例市	248,304	27.46	1,270	9,042.4	6	11,756	41,384	4.6	1,959	◇都市類型同じ
10	太田市	施行時特例市	223,014	175.54	3,207	1,270.4	15	29,405	14,868	11.7	1,960	○隣接市。◇都市類型同じ
合計			2,021,064	948.7	-3,792		149	209,960				
平均			202,106	94.9	-379	2,130.3	14.9	20,996	13,564	6.4	1,409.1	

(備考)

- 「都市類型」のⅠ～Ⅳは人口規模(数字が大きいほど人口が多い)を、0～3は産業構造(数字が大きいほど第3次産業の就業割合が高い)をおおむね表している。
- 「人口」、「面積」及び「5年間の人口増減数」は、令和2年国勢調査 人口等基本集計 第1-1表による(「面積」は参考値)。
- 「公民館数」は、各市の公民館条例(又は公民館設置及び管理条例。東松山市のみ市民活動センター条例)に規定する公民館又は類似施設の数(分館及び分室を含み、老朽化を理由に貸出停止中の館を除く。)



公民館数と1館当たり延床面積の間には、ある種の相関関係(数が多いければ規模は小さく、規模が大きければ数は少ないという反比例の関係)があるように見受けられます。

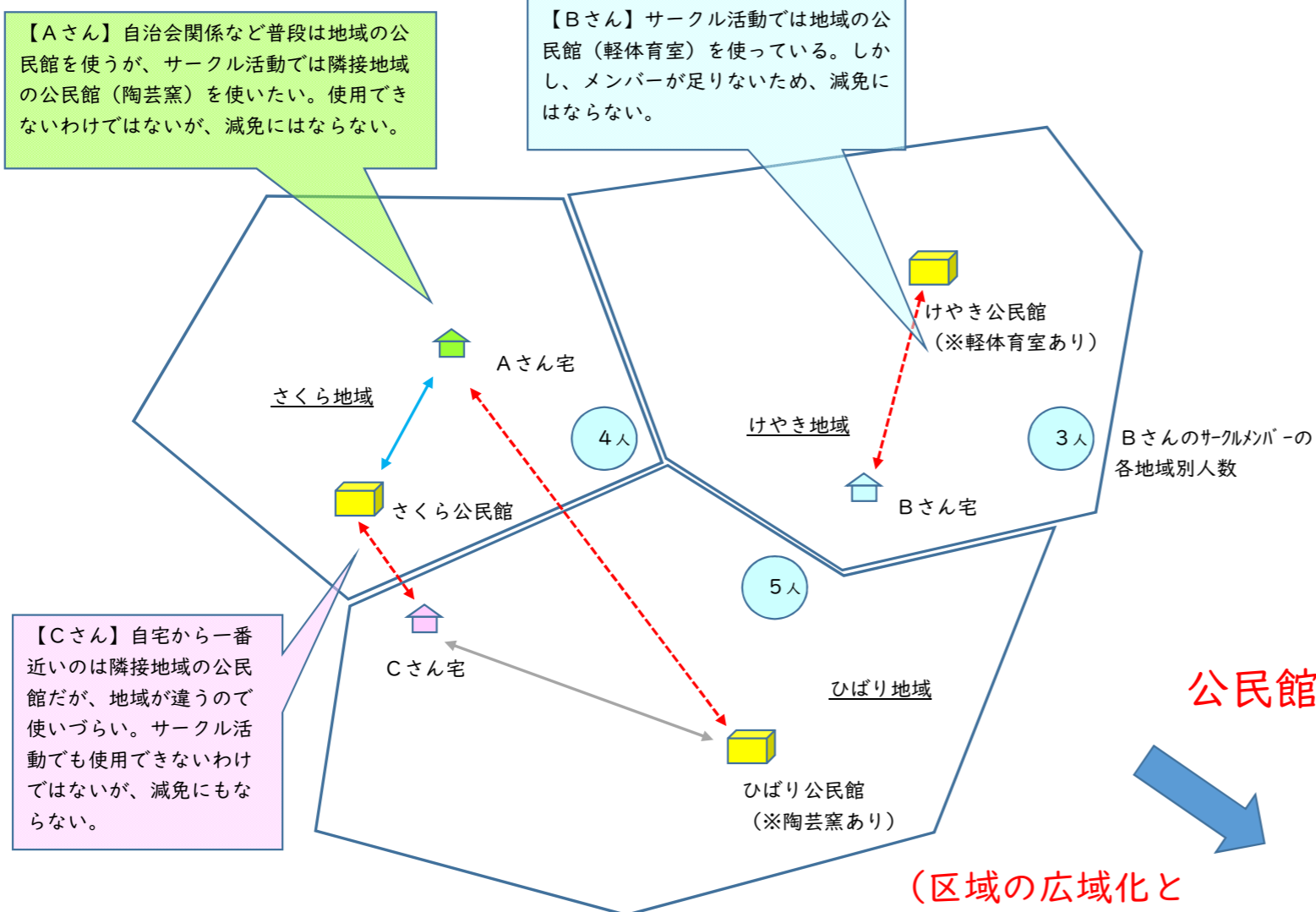


30~35の公民館を設置した場合
(甲案)による試算値

7つの公民館を設置した場合
(乙案)による試算値

◇ 公民館数と1館当たり延床面積との関係 ◇

【再編前のイメージ】



【Aさん】自治会関係など普段は地域の公民館を使うが、サークル活動では隣接地域の公民館（陶芸窯）を使いたい。使用できないわけではないが、減免にはならない。

【Bさん】サークル活動では地域の公民館（軽体育室）を使っている。しかし、メンバーが足りないため、減免にはならない。

【Cさん】自宅から一番近いのは隣接地域の公民館だが、地域が違うので使いづらい。サークル活動でも使用できないわけではないが、減免にもならない。



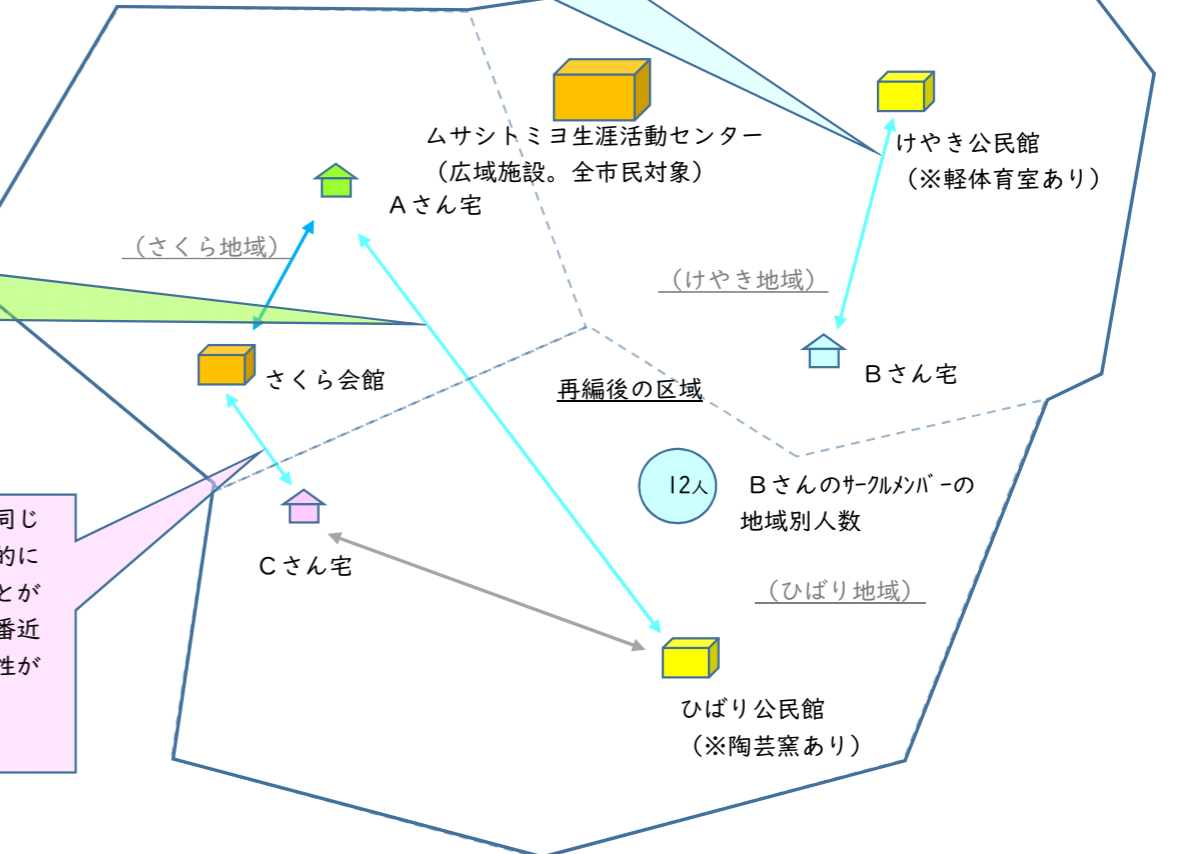
（区域の広域化と選択肢の増加）

【再編後のイメージ】

【Aさん】再編後は同じ区域となるので、利用しやすくなり、減免も受けられるようになる。講座・サークル活動の選択肢が増える。(M1)

【Cさん】再編後は同じ区域となるので、目的に応じて使い分けができる。自宅から一番近い公民館の利用可能性が広がる。(M2・M4)

【Bさん】再編後の区域が広がることで、減免の要件を満たしやすくなる。人口減少下においてサークル自体の存続も図れる。(M3)



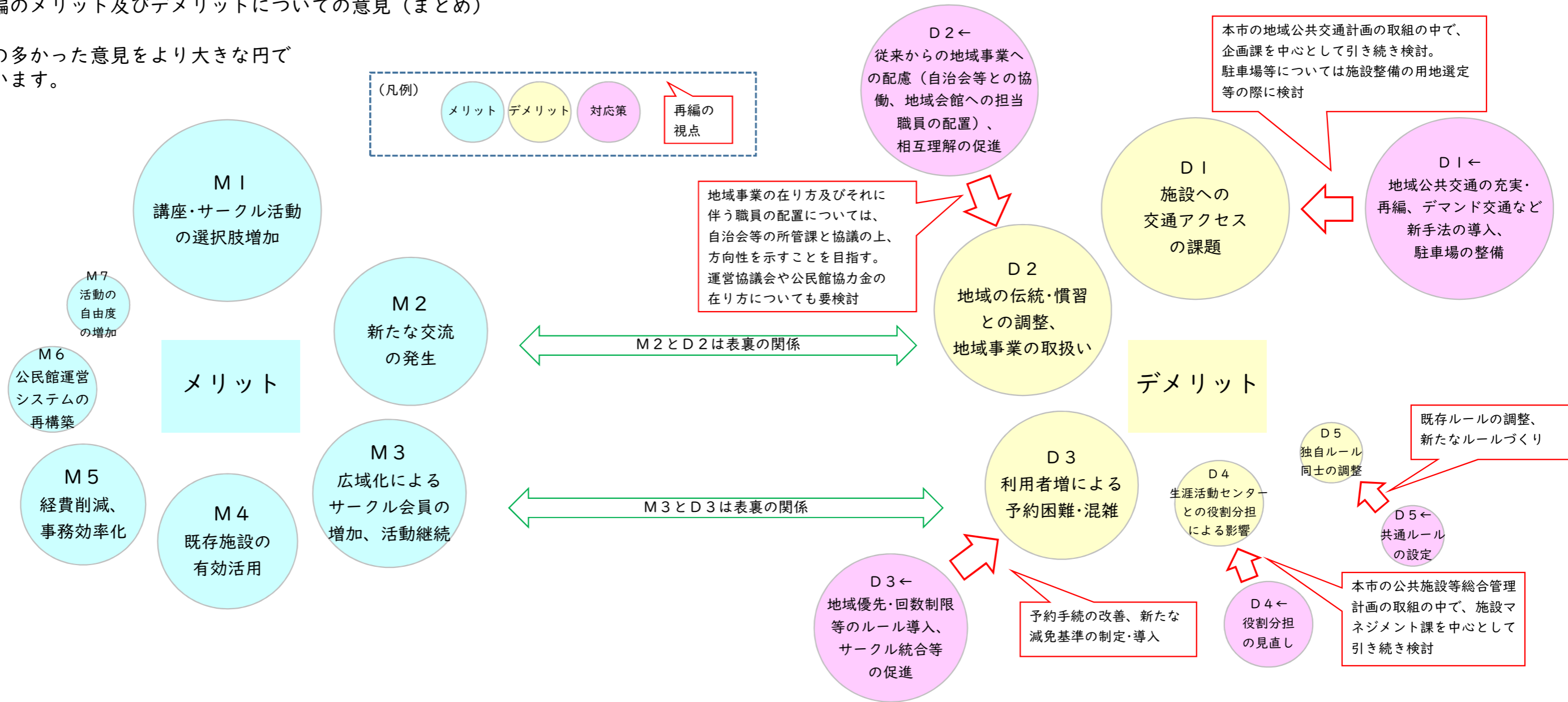
(さくら地域)

(けやき地域)

(ひばり地域)

○公民館再編のメリット及びデメリットについての意見（まとめ）

※ 件数の多かった意見をより大きな円で示しています。



区分	メリットの概要	件数(館)
M1 講座・サークル活動の選択肢増加	講座（自主事業）やサークル活動の選択肢が増加し、様々な学習・活動の機会を確保できる。人気の講座や評判のサークル活動に参加しやすくなる。同じ区域なので減免も受けやすくなる。	9
M2 新たな交流の発生	区域が広がり新たな交流が生まれる。より広い区域で一緒に活動することで情報交換などができる。	6
M3 広域化によるサークル会員の増加、活動継続	広域化によりサークル会員が増加し、人口減少下でのサークル活動継続に資する。区域内会員の（割合の）増加により減免を受けやすくなる。講師への謝礼を負担しやすくなる。	6
M4 既存施設の有効活用	調理室や陶芸窯など隣接区域等の施設・設備が使いやすくなることで、活動の幅が広がる。他の諸室の利用増加も見込まれる。	5
M5 経費削減、事務効率化	維持管理経費の削減が図れる。個別に行っていた事務を一括で処理できるため事務を効率化できる。	4
M6 公民館運営システムの再構築	現在の地域公民館運営上の問題点・課題等を洗い出し、再構築することができる。	2
M7 活動の自由度の増加	使用できる施設の選択肢が広がることから、サークルの活動日増加や活動方法の柔軟化が見込まれる。	1
小計(延べ)		33

区分	デメリットの概要	件数(館)	デメリットへの対応策（意見）
D1 施設への交通アクセスの課題	（減免での）利用が可能といわれても遠い施設は利用しにくい。交通利便性が低い地域や交通弱者にとっては区域が広がることによるメリットを受けづらい。	9	民間路線バス、市内循環バス（ゆうゆうバス）などの地域公共交通の充実・再編。デマンド交通など新たな手法の導入。駐車場の整備（台数の確保）
D2 地域の伝統・慣習との調整、地域事業の取扱い	その地域ならではの文化・伝統などの地域性・独自性が薄れてしまうおそれがある。地域の事業（七つの祝い、敬老会、体育祭、地域伝承行事等）の実施が困難になるおそれがある。	8	従来の地域での事業は地域自治会等との協働事業とする。地域会館に地域事業を担当する職員を配置する。事前に課題について議論し相互理解を図る。
D3 利用者増による予約困難・混雑	利用者が増えると施設の予約が取りにくくなる。（特に設備の良い施設に）利用者が集中して混雑する。	6	地域優先のルールを設ける。施設利用回数（予約回数）に制限を設ける。会員の少ないサークル・団体同士の統合・合同利用を促す。
D4 生涯活動センターとの役割分担による影響	生涯活動センターに公民館機能を移転すると生涯学習の機会提供という公民館の目的に足かせとなるのではないか。	2	生涯活動センターと地域会館の役割分担を見直す。
D5 独自ルール同士の調整	物品の預かりなど、地域公民館ごとの独自ルールがあるため、その間の調整が必要となる。	1	事前によく議論して共通のルールを設ける。
小計(延べ)		26	

※ 19の地域公民館から計70件の意見が提出されました。内訳は、メリット33件、デメリット（及びそれへの対応策）26件、その他11件です（件数は館を単位として集計したものです）。
 なお、今回寄せられた意見のうち「その他」としたのは、①公民館組織（区域）の再編ではない専ら施設・建物（ハード）に関する意見・提案であるもの（4件）と、②制度的・技術的な意見・提案であるもの（7件）です。これらについては、この資料には掲載していませんが、今後取りまとめる公民館再編案自体にその意見の趣旨を反映させることができないか検討していく予定です。